

東京都廃棄物審議会計画部会

1回

会議録

令和2年11月11日

東京都環境局資源循環推進部

(午前 11時31分 開会)

○中島計画課長 それでは、定刻を過ぎましたので、東京都廃棄物審議会計画部会を開催いたします。

委員の皆様方におかれましては、廃棄物審議会総会に引き続き御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

私は、本審議会の事務局を務めます東京都環境局資源循環推進部計画課長の中島でございます。引き続きよろしくお願いいたします。

計画部会の開催に当たりまして、先ほどと同様ですが、何点か注意事項を申し上げます。本部会はWEBで行います。都庁の通信環境の状況によっては映像や音声途切れる場合がございます。あらかじめ御了承いただければと存じます。発言の際には、まずお名前をおっしゃってから御発言ください。チャット機能を使って発言したい旨をお伝えいただいても結構でございます。

続きまして、定足数について、御報告申し上げます。本日は9名の委員の方に御出席をいただいております。委員総数10名の過半数に達しております。東京都廃棄物審議会運営要綱第7第8で準用しております第6第1項で規定しております定足数を満たしていることを報告させていただきます。

それでは、議事に先立ちまして、事前にデータで送付させていただいております資料の確認をさせていただきます。

資料1が、本計画部会委員の名簿でございます。資料2が、資源循環・廃棄物処理計画の改定の視点でございます。資料3が、今後のスケジュールについてでございます。資料の不足等、ございませんでしょうか。何かありましたら、事務局まで御連絡いただきますよう、お願いいたします。

また、本部会は同運営要綱第9第1項の規定に基づきまして、WEB上ではございますが、公開としておりますので、御承知おきください。

それでは、委員の皆様を改めて紹介させていただきます。事前に配布いたしました資料1の審議会名簿を御覧ください。こちらも時間の関係でお名前を御紹介させていただく形にさせていただければと思います。

五十音順で読み上げさせていただきますが、大石委員でございます。

後藤委員でございます。

斉藤委員でございます。

佐藤委員でございます。

田崎委員でございます。

橋本委員でございます。

松野委員でございます。

宮脇委員でございます。

最後に、森本委員でございます。

先ほどの総会で、会長から部会長として橋本委員が指名されておりますので、これからの進行を橋本部会長にお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。

○橋本部会長 よろしく申し上げます。部会長を務めさせていただきます、橋本です。どうぞよろしくお願いいたします。

本部会では、先ほどの総会の中でもございましたように、東京都の資源循環・廃棄物処理計画の改定の内容について、専門的な視点から課題の整理と議論を行うということとなっております。先ほどお話がありましたとおり、廃棄物処理法に定められている項目のほか、コロナ禍を踏まえた持続可能

な資源利用のあるべき姿と施策の方向性という少し難しい内容も含まれております。

基本、Z o o mで開催されると伺っており、議論のしにくいところもあるかと思いますが、ぜひ活発に御意見をいただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日、第1回目の部会ということもありますので、最初に大まかな方向性を共有させていただいて、本格的な議論は次回以降に行っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、事務局のほうで資料を用意いただいておりますので、事務局より説明をお願いいたします。

- 中島計画課長 それでは、資料2を御覧ください。先ほどの総会のほうでも御報告した内容と重複する部分がございますが、今回に関しましては、おおむね2030年頃を想定した長期的なビジョンと併せまして、2025年度までの具体的な計画、この2点で御検討いただきたいと思っております。

それから、内容としましては、コロナ禍を踏まえた「持続可能な資源利用」のあるべき姿と施策の方向性、それから法に定める事項でございます。

計画改定の視点でございますが、先ほど来お話をさせていただいておりますが、2050年までに、都内からのCO₂の排出量の実質ゼロを目指すことを打ち出した「ゼロエミッション東京戦略」を実現するための資源循環の分野における施策の在り方、それから、コロナ禍においても安定的な廃棄物処理、リサイクルを可能とするシステム、仕組みの在り方、それと、先ほど数値目標で御説明をさせていただいたところでございますが、なかなか資源の使用の効率性という部分については、その指標では十分捉え切れない部分がございます。今後の方向に向けましては、そういったものの資源の効率性を把握するための進捗状況をどのように把握していったらいいのかということについても、その在り方について御検討いただければというふうに考えてございます。

以上でございます。

- 橋本部会長 ありがとうございます。

それでは、この件につきまして、今後の検討の内容ですが、先ほどの総会の中でも既に必要な点は御指摘いただいていると思うんですけども、もし御意見がありましたら、よろしくお願いいたします。

佐藤委員、お願いいたします。

- 佐藤委員 佐藤でございます。よろしくお願いいたします。

まあ、処理計画をつくるに当たって、今までの経験もあるでしょうが、都民が参加しやすい計画のあり方を改めて考える必要があると思うんですね。それで、都で作ることは当然ですが、現在の処理の体制について、市民・産業界、特に東京の場合はビルが多いですので、大規模商業ビル、マンションの管理会社、こういうところが東京都の廃棄物の処理について、どういう要望があるか、どうやったら廃棄物減量に協力できるかということについて、意見を聞いてはいかがでしょうか。廃棄物を捨てる方々が減量・資源循環に参加しやすい、そして理解しやすいということが重要だと思います。そのためには、最大のステークホルダーである排出者側にアンケートを取ってみるとか、あるいは一部ヒアリングをしてみるとかということが必要ではないかというふうに思っています。

- 橋本部会長 ありがとうございます。重要な御指摘、ありがとうございます。

この点について、事務局からも何かありますでしょうか。

- 中島計画課長 佐藤委員から御意見をいただきました。貴重な御意見をありがとうございます。

実際にその計画、行政だけでつくってそれでおしまいというものではございませんので、当然です

けれども、排出する側がどのような意識を持っているのか、どのような課題を抱えていらっしゃるのかということでは、私も、日頃の仕事の中でも聞いている部分はあるんですけども、この計画の策定に当たって、アンケートというやり方がいいのかヒアリングというやり方がいいのか検討させていただきますが、いろいろなどころから御意見を頂戴しながら、それもまた報告させていただきながら議論を深めていければというふうに考えてございます。

○橋本部会長 ありがとうございます。

よろしいでしょうか。

松野委員、お願いいたします。

○松野委員 千葉大の松野でございます。

先ほど、ちょっと通信状況が悪かったので聞き取れなかった可能性もあるんですが、今回の2050年まで都内のCO₂排出量をゼロにするというのは、かなり壮大な、大きな流れの計画、それともう一つは、コロナ禍における在り方というのがあるんですけど、コロナ禍はこの2年くらい非常に関心のある話かもしれないんですが、2年たったら過ぎてしまうかと思うんですが、どこまで力を入れて今回考えられるのか、そのバランスといいますか、ちょっとそこをお伺いしたいのですが。

○橋本部会長 ありがとうございます。この点、コロナ禍と書かれていますけど、ポストコロナという趣旨かどうかということも含めて、事務局のほうからお願いいたします。

○中島計画課長 ありがとうございます。

まず最初の2050年度のCO₂実質ゼロというのは、非常にハードルの高いというか、野心的な目標でございます。今までの取組の延長線上だけでは当然実現できるようなものではございませんので、当然技術の進展ですとか、大きな社会システムの変革等も伴わないとなかなかできないものとは考えてございますが、都としては、まずは高い目標を立てた上で、そこからバックキャストする形で施策を積み上げていくということも必要かと考えてございますので、そういったものと御理解いただけると恐縮でございます。

また、コロナ禍ということにつきましては、正直、事務局側のほうでもこのコロナ禍の状況がいつまで続くのかというのがまだなかなか分からない状況でございます。もちろん、コロナだけに着目するというだけではございませんけれども、今回、コロナの関係でいわゆる処理業者さんというのは、なかなかリスクを抱えて処理されている環境をどうするのかという考え方もございますし、また、その中で例えば通常ですとリサイクルされるペットボトルですとかが焼却に回ってしまっている例ですとか、それから、特に瓶、缶等、口の触れるものですね、それをリサイクルの現場で手で選別されている方というのがリスクにさらされたりする部分がございますので、そういったものをどう考えていくのかというのは、やはり視点の一つとしては重要なものなのかと考えてございます。

そういったことを踏まえまして、コロナだけに着目するわけではないんですが、今回のコロナで少し明らかになった課題ですとか、そういったものも踏まえた上で長期的な視点で検討を進めていきたいというふうには考えてございます。

○橋本部会長 松野委員、よろしいでしょうか。

○松野委員 ありがとうございます。

○橋本部会長 ありがとうございます。

田崎委員、お願いします。

○田崎委員 今の松野委員からのコメントと多分同じような指摘をさせていただくところがあると思

うんですが、まず一つは短期的感染防止というような観点の安全の確保のための取組というのはある程度は必要とはいえ、長期的に見て過剰な取組にならないように注意する必要はあると思っています。

それから、ポストコロナという意味では、オールド・ノーマルに戻る、ニュー・ノーマルに戻るというような話があるかと思うんですけれども、私自身が持続可能な消費生産という研究の視点から見た場合、やはりオンライン化はかなり進んだというところがあり、それに伴う廃棄物の増量、増えているというところはあると思いますので、特にネット販売なども含めて、どういったことを対応していくのかというところは、一つ大きな課題として、コロナ禍の後の話として残っていると思っています。

以上です。

○橋本部会長 ありがとうございます。

事務局、何かありますか。

○中島計画課長 まさに先生の御指摘のとおりですが、短期的に取り組む感染防止の取組ということのほか、それをずっと2050年まで単に引き延ばせばいいという話ではございませんので、あんまりそのところにだけ着目した計画にはもちろんならないように気をつけて議論を進めていければというふうには考えてございます。

また、ポストコロナということで、確かにオンラインの進展でごみの排出が若干変わっているというところもございます。そういったところというのは、都民の消費生活というのがまた変わっていたりですとか、働き方についても変わっている部分がございます。これが今後のごみの排出、それから資源を循環させる在り方について、どういう影響を与えるのかというのを、きちんと見定めた上で、具体的な施策の方向性というのを定めていく必要があるというふうに考えてございます。

寄せていただいた意見は、大変貴重な視点だと思いますので、今後の様々な事務局から提供させていただく資料の中でもこういったものの参考になるようなものを出せないのかというのを、検討を進めていきたいと考えております。

○橋本部会長 ありがとうございます。

大石委員、お願いいたします。その後、斉藤委員、お願いいたします。

○大石委員 大石です。先にすみません。

先ほど佐藤委員もおっしゃいましたが、やはり出す側ですね、都民の側の意識を変えていかないと、2050年のカーボンゼロというのは本当に難しいなというふうに思っています。東京とは状況は全く違うのですけれども、先日、鹿児島の大崎町のごみ行政の話聞くことがあって、大崎町では焼却炉を建て替えないといけないということになって、それがとてもお金がかかるので、じゃあ、もう焼却炉はなしにして、何とか埋立てだけでということで、町内でいろいろ工夫をされているということでした。例えば、先ほどのお話の中でエッセンシャルワーカーの人たちが、なかなか人数が集まらない、回数が難しいというこの状況で、逆にコロナ禍のあともそれを続けていけるだけのシステムの転換というのできるようにしておけば、CO₂の削減にもつながるかなというふうにも思いました。

今であれば回収の頻度は上げることが都民にとってのサービスのようには思われていますけど、例えばプラスチックごみなども、今までであれば、ささっと洗って、匂いが残っているような状態でも、頻繁に出せるので皆さんどんどん出されるのだと思いますが、例えば2週間に1回しか出せないよということになれば、都民の側もそれをなるべく買わないようにするでしょうし、買った後もなるべく

きれいにして家に置いておいてもいいような状態で保管するなど、生活の仕方も変わってくるのではないかと。かなりこれは都民の理解と協力も必要ですけど、でも、やはりそのくらい考えないと、なかなか実現が難しい内容だなど思っていますので、そういう根本のところから考えることができればなど思っています。

雑駁ですけれども意見を申し上げます。以上です。

○橋本部会長 ありがとうございます。

収集回数の話、先ほどの審議会のほうでもありましたけど、事務局から何かありますでしょうか。よろしいですか。御意見として。

○中島計画課長 収集回収の話につきましては、実際にいつも担っていらっしゃる区市町村さんの考えというところが大きいかと思えます。また、当然、区市町村が住民に最も近いところで廃棄物の処理、リサイクルに関する処理をしていますので、そういったところがどのように全体として考えるのかというのは、非常に大きな視点だと思えます。先生がおっしゃっていただいた都民の消費行動を変えるような意識をどのような形であれば変えていっていいのか、それに対してどういうアプローチをしていけばいいのかというのは、都としても非常に大きなテーマであるというふうに考えていますので、そういった視点は十分踏まえながら施策をどのように構築していくかというのを考えてまいりたいと思えます。

○橋本部会長 ありがとうございます。

それでは、斉藤委員、お願いいたします。

○斉藤委員 ありがとうございます。

ほかの委員の方がおっしゃっているところと大分重なってくるんですけども、コロナでいろいろと生活が変化したというところの中でその働き方もそうですけど、大分ライフスタイルが変わってきているというところで、またそれが多少ごみの出し方云々も含めて影響が出てくるのかなというふうなことを考えているので、そういうライフスタイルの変化に合わせてどういうふうに対応していくのかということに関して、多分、情報の提供の仕方も変えていかなければいけないのかなということを考えているんですね。例えば、コミュニケーションにしても、我々、対面で話をする機会ではなくてオンラインで話をする機会が増えてきましたし、恐らく、これだけ情報がさらに多くなっていく中で適切な情報をどういうふうに伝えていくのかということがより重要になってくるのかなというふうに思いますので、なので、そういう、この普及啓発というふうに口で言うのは簡単ではあるんですけども、恐らくライフスタイルが変わってくると今度は情報の接し方も変わってくるので、どういうふうな媒体を使ってどういうふうに伝えていくのかということも今後は考えていかなければいけないのかなということが一つあります。

もう一つは、総会のところで戸部委員がおっしゃっていたことが、まさに私の中で引っかかっている部分であるんですけども、よくSDGsの話で働くということにもかなり注目されている中で、やはり今回の計画改定の視点の中での二つ目のところで、社会基盤としてのシステムの在り方と書いてありますけど、これ、働く人がないシステムというのはないわけですから、働く人たちへの配慮も含めたことをきちっと考えていくということも大事なのかなということを改めて思いましたので、意見として出させていただきたいと思えます。

以上です。

○橋本部会長 ありがとうございます。

事務局から何かありますか。

○中島計画課長 コロナの影響でライフスタイルが変わってきているというところで、それに合わせて、また情報、普及啓発の仕方というのは変わっていくのであろうということは、まさに委員のおっしゃるとおりでして、なかなか、今まで都でも普及啓発というのは大規模なイベントをやったり、商業施設と連携しながら直接訴えるという形が非常に多かったのですが、今回なかなかそういうことができないので、我々としてもオンラインを活用したりですとか、そういった取組に今、少しシフトをしていっている状況です。今後、そういった取組をやる中でどういったやり方がより効果があるのか、響くのかということを考えていろいろ試行錯誤をしていく必要があるのかなというふうに考えてございます。

また、そのシステム、廃棄物の処理、それからリサイクルにしても、当然人が支えている部分というのは非常に大きい部分がございますので、そういった方々がどのような形で考えてこのリスクに向かい合えるのかですとか、それから人のところに関して言いますと、人口が減少していく局面というのもございますので、そういった中でどういったシステムを維持していく方策があるのかというのは、大変重要な視点だというふうに考えております。

○橋本部会長 ありがとうございます。

そのほか、いかがでしょうか。

宮脇委員、それから後藤委員、お願いいたします。

○宮脇委員 宮脇です。よろしくお願いします。

先ほどから出ている意見にも少し重なって、今、ちょっと事務局からもお話があったところなんですけれども、前の会議のほうでも戸部委員から収集回収の話とかも出ていたんですが、人の面というのもあるんですけれども、まさに労働人口が2050年に向かって激減するという時代を迎えて、残念ながら今、日本で行われている、例えば廃棄物の収集、パッカー車を使った収集というのは、非常に大昔からやられている形態をそのまま踏襲しているということで、やはり今後は自動化ができるようなシステムというのを構築するというのは技術的な面から必要じゃないかなというふうには思っています。

自動化、合理化を進める視点というのは、やはり今後人口が減っていく中で非常に大事なんだろうなというふうに考えていて、ちょうど先ほど、リチウムイオンの電池の話でも、まさにお話しいただいたようにタグづけをすることで自動化が、今現在、手選別で不燃のラインとかで一生懸命人が回収をされているんです。ちょうど昨日、実験の研究関係で不燃残渣のサンプリングなんかに行って、ついでに学生と見学をさせていただくと、手選別のラインで、やはり電池の入っているものを抜くというのは、非常に大変だという話もあったので、やはりこういうのを、先ほどちょうど橋本先生からも御提案がありましたけど、タグづけもそうですけども、いろんなセンサー技術とかどんどん進んでいるので、こういう中で、やはり技術も、もちろん人が丁寧にやるという、都民が頑張るということも大事なんですけど、それ以上に、やはり新しい技術を導入するということも、技術だけでは駄目なので、両面からいけるようなシステムづくりなんかも考えればいいんじゃないかというふうに考えています。

どうもありがとうございます。

○橋本部会長 ありがとうございます。

では、後藤委員からも御意見をいただいてから、事務局からお答えいただければと思います。

○後藤委員 東京商工会議所の後藤と申します。廃棄物排出ならびにリサイクルに関わる事業者の立場から議論に参加してまいります。

今回の計画改定の視点については異論ありません。今後の進め方についての要望ですが、リデュースを前提に、リユース、リサイクル、リニューアブルと資源循環の仕組みを回していくためには、その過程で目詰まりを起こしてはいけないと思います。先ほどの審議会での戸部委員の現場として意見が非常に印象的でした。資源循環の現場においてリサイクル、リニューアブルのサイクルが回っているか、再生製品の市場が縮小することのないよう、現場の状況をしっかり聞きながら議論を進めていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○橋本部会長 ありがとうございます。

それでは、事務局からいかがでしょうか。

○中島計画課長 廃棄物の収集、リサイクルに関しましては、かなり人手による部分が多い、労働集約的な要素があるというふうな状況でございます。そこに携わる方々の目線も十分いかしながら、やはりおっしゃっていただいた、将来に向けた労働人口が減っていくということもございますので、自動化ですとか新たな技術というのを活用していくという視点は大変重要だと思います。国のほうにおいても、収集を少し人手を介さない形でというような実証みたいなのも始めていらっしゃるというお話は聞いてございますので、そういったものも参考にしながら進めていければというふうに考えてございます。

それから、リデュースを前提にしながらリユース、リサイクルで、それがきちんとリサイクルされた製品が市場で評価されて、活用されてこそ資源循環の輪が回るというところがございますので、そういったところの視点も大変重要でございますので、様々な業界ですかと連携をしながら定着を進めるような施策というのも考えてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○橋本部会長 ありがとうございます。

そのほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(なし)

○橋本部会長 貴重な御意見、たくさんいただきましたので、これも踏まえまして事務局のほうで原案を作成していただいて、またこの先、議論させていただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の議題はこれだけなんですけれども、今後のスケジュールについて、資料3でしたかね、事務局から御説明をお願いいたします。

○中島計画課長 資料3を御覧ください。先ほどの表とほとんど変わっておりませんが、少し付け加えた部分としましては、今後のまず検討ですけれども、部会での審議、4回程度を想定しておりまして、その中で中間のまとめ案というのを議論させていただければというふうに考えてございます。

現在、今回キックオフという形で第1回は簡単な形で開催させていただいているんですけれども、第2回につきましては、12月下旬、もしくは1月上旬をめどに日程を調整させていただいております。すみません、まだスケジュールの御回答をいただいている委員の方もいらっしゃるようですので、早めの御回答のほう、御協力いただければと存じます。

それから、中間のまとめ、審議会のほうで御議論いただいて了承されましたら、5月下旬からパブリックコメントと区市町村の意見聴取をいたしまして、そういった意見もまた部会のほうに御報告さ

せていただいて、最終案の取りまとめに向けて2回程度作業のほうをお願いできればというふうに考えてございます。最終的に9月の総会での答申、それから、東京都としましては9月下旬の新計画の策定に向けて作業を進めてまいりたいと考えていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○橋本部会長 ありがとうございます。

5月中旬までに4回程度ということですので、今後およそ月1程度ということで、皆さんお忙しいかと思うんですけども、どうぞよろしくお願いいたします。

この件につきまして、何か御質問等はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

(なし)

○橋本部会長 それでは、以上をもちまして本日の議事は終了いたしました。進行役を事務局にお返ししたいと思います。よろしくお願いいたします。

○中島計画課長 本日は、熱心な御議論をいただきまして、どうもありがとうございました。これでスケジュールは全て終了でございます。本日の廃棄物審議会計画部会を閉会したいと存じます。

本日はどうもありがとうございました。

(午前 11時58分 閉会)